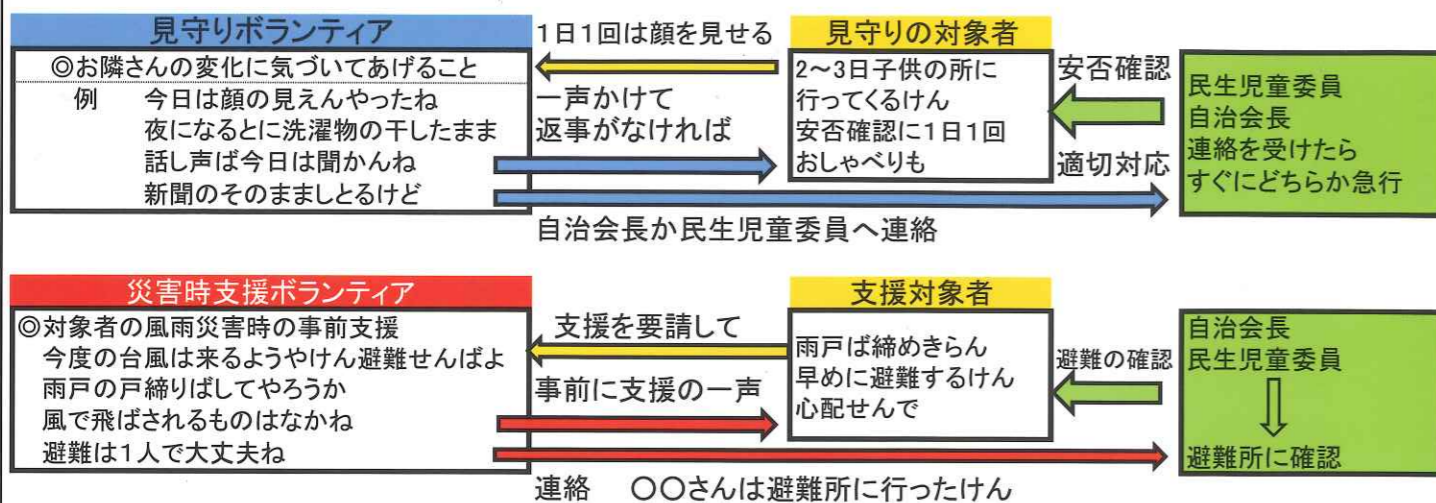


社会福祉協議会深堀支部の支え合い

私たちの深堀地区では、高齢になっても一日でも長く、『住み慣れた地域の住み慣れた自宅で』生活ができるように、其々の自治会で隣近所の「日常見守り」と災害時の避難支援を手助けしてくれる「災害時支援員」の体制を整えています。難しいことではなく、日常の生活の延長でお互いが『見守りと支え合い』を行う、双方に負担の少ない活動です。今回はその取り組みについて説明します。



深堀では、避難所の事前開設が決まった段階で自治会長の連絡網で、各自治会長に情報を伝えています。避難する時は自治会長に電話で訪ねてください。併せて自治会長も地区の誰が避難したかも把握できます。避難所では食事の提供ができませんので、2食分くらいとお茶、パンや駄菓子など日持ちのするものを持参ください。



5月のふれあい食事会



社協深堀支部では「支え合いネット ワーク」の協賛会員を募っています。

社協深堀支部では福祉活動として『育児教室・ふれあいサロン・高齢者ふれあい食事会』をはじめ、町内での見守り活動や災害時支援活動など様々を取り組んでいます。子育て世代や高齢者対策に取り組んでいます。このような活動の原資は地域の企業様や個人による協賛会員の皆様に年会費（一口三千円で何回でも可）の協力を頂き、併せて長崎市社会福祉協議会より共同募金の戻り金を補助金として分配してもらおうことで成り立っています。地域の中でこれから加える高齢者対策や少子化対策の上からも、ますます重要な地域活動となることは言うまでもありません。社協深堀支部では現在、広く協賛会員を募っています。ご協力いただける方や企業様はぜひご連絡をお待ちしています。詳しいことは、ご連絡いただければお伺いしてご説明申し上げます。社協深堀支部 深堀地区ふれあいセンター内（代表八七一一二三八七）

人を探しています

昭和50年(47~49年頃かも)頃に高島診療所に勤務した医師です

当時、大波止からの船で高島に通っていましたが、船に乗り遅れ、深堀からの便があると聞きタクシーで深堀へ来たが、これにも乗ることができず困り果て、すぐ近くの(多分船は「みつまる」場所は波止のうちか?)家を訪ねて相談したところ、居合わせたおじさんが手漕ぎの船で小さな女の子(当時3~6歳くらいと思う就学前は確か)を乗せて高島まで送って頂いた。当時は慌てていたため十分なお礼も言わないままとなってしまう、今になって心に残るものがあり、わかるのであれば、ぜひお礼を言いたいとの情報がふれあいセンターに寄せられました。年代から推測すると現在は、おじさんが75~80歳代で女の子が45~50歳くらいではないかと思われます。心当たりの方は深堀地区ふれあいセンター☎871-2387か携帯090・9070・2849 西迄ご一報頂ければ幸いです。

地域情報紙 第4号

ふかほり

発行 深堀地区コミュニティ協議会
 所在 深堀地区ふれあいセンター内
 長崎市深堀町5丁目182番地
 電話 871-2387 fax兼用
 令和元年9月 発行



深堀地区コミュニティ協議会主催
夏休み「サマースクール」が開催されました。

七月二十八日(日)、大学生ボランティア団体「やってみようでスク」の学生さんの協力で、小学校四年生から六年生を対象に学習会をしました。前年の反省もあり、夏休み前半で宿題や苦手な科目の課題解決に、現役の大学生の「お兄さん・お姉さん」に教えて頂きながら取り組みました。お昼の食事は、自分たちで作った「ゼリーのデザートやおにぎり」とボランティアで参加して頂いたお母さんたちが作ったソーメンを、ふれあいセンター二階から隣接するふれあい広場へ向けてジェットコースター並みのソーメン流しで、楽しい昼食の時間でした。



